

令和5年度 第1回 東播臨海広域ごみ処理連絡会議

会議録

1 開会及び閉会の年月日時並びに場所

開会：令和5年7月11日（火）午前9時30分

閉会：令和5年7月11日（火）午前10時15分

場所：エコクリーンピアはりま 管理棟4階 大会議室

2 会議に出席した者の職及び氏名

会長（議長） 高砂市長 都 倉 達 殊

委員 加古川市長 岡 田 康 裕

委員 稲美町長 中 山 哲 郎

委員 播磨町長 佐 伯 謙 作

3 議事

(1) 令和4年度 広域ごみ処理事業について

(2) 令和5年度 広域ごみ処理事業について

(3) その他

4 議事の経過及び確認事項

令和4年度 第2回 東播臨海広域ごみ処理連絡会議（令和5年1月31日（火）開催）会議録を確定。

(1) 令和4年度 広域ごみ処理事業について

① 事務局から議事(1)について報告。

・令和4年度広域ごみ処理事業について

・令和4年度広域ごみ処理事業特別会計歳入歳出決算額について

・令和4年度広域ごみ処理事業に係る2市2町の負担額について

② 議事(1)について全委員が確認した。

(2) 令和5年度 広域ごみ処理事業について

① 事務局から議事(2)について説明。

・令和5年度広域ごみ処理事業について

・令和5年度広域ごみ処理事業に係る予算について

② 議事(2)について全委員が確認した。

③ 質疑応答

1) エコクリーンピアはりま発電電力の地産地消利用に係る検討業務委託について

・加古川市長

売電収入が増加した理由は何か。

・事務局

FIT 分に関しては国が決めた価格での固定買取制度で売却単価は一定

であるが、非FIT分は社会情勢に大きく左右され、現状はウクライナ情勢等の影響を受け単価が高騰している。また、ごみ質はプラスチックが多く、発熱量が大きいことから発電量が増加していることも要因である。

・加古川市長

FIT分と非FIT分の分け方はどのようにしているのか。

・事務局

毎月ごみピットからごみをサンプリングし、性状分析を行っている。その中で、紙・布・草木・生ごみがFIT分に当たり、プラスチックが非FIT分に当たる。性状分析での重量当たりの割合を発熱量換算した割合が、FIT分・非FIT分の比率となる。FIT分の比率は40%～55%程度で推移している。

・加古川市長

ごみから発電することでCO₂がゼロという考え方について教えてほしい。

・事務局

プラスチックを用いた発電で新たな化石燃料を使っていないため、非化石証明を出すことができる。これをもって、新たなCO₂を生み出していないと評価している。

・加古川市長

検討業務の事業スキームについて教えてほしい。また、方向性の決定前に各市町と検討・協議してほしい。

・事務局

エコクリーンピアはりま発電電力の地産地消として、各庁舎へ送電する場合、関西電力送配電株の送配電網を使うことが基本となる。その際には関西電力送配電株に電力を売却し買い戻す方法及び関西電力送配電株に使用料を支払うことで関西電力送配電株の送配電網を使う方法がある。それらの組み合わせにより検討する。場合によっては、電力会社の立ち上げも検討していきたい。

また、方向性の決定前には事前に各市町と協議し、進めていく。

(3) その他

① 事務局から議事(3)について説明。

・広域ごみ処理施設周辺道路整備事業及び広域ごみ処理施設周辺整備事業実績について

・ごみ量の推移について

② 議事(3)について全委員が確認した。

(傍聴者2名)

以上